

## 2016 JUA/EAU Academic Exchange Programme 2016 を終えて

大 前 憲 史 (東京女子医大)

今回私は、光栄にもこのプログラムの日本メンバーとして選抜していただき、同じく日本メンバーである、名古屋市立大学の岡田淳志先生とともに、3月5日から15日までの11日間、第31回EAU Annual Congressを含む、ヨーロッパのツアーに参加させていただきました。

このプログラムは昨年に引き続き第2回目とのことでしたが、昨年同様実に良くオーガナイズされており、日々大変貴重な経験をさせていただきました。さらに今回は昨年と異なり、台湾から3名の先生も我々と同じプログラムに参加され、皆ほぼ同年代ということもあって、毎日とても楽しい時間を過ごすことができました。かけがえのない経験を共有できた、この4人のメンバーは、私にとって生涯の大切な友人となるに違いありません。

まずはこのような貴重な機会を与えてくださりました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

今回のツアーですが、スタートはまず、オーストリアのザルツブルクにあるSALK University Clinic and Paracelsus Private Medical Universityから始まりました。Professor Karl-Dietrich Sievertはじめ、スタッフの方々のホスピタリティ溢れる素晴らしいプログラムにより、臨床から研究に至るまで、多くのことを見、学ぶことができました。手術もたくさん見学させていただきましたが、そのうちのいくつかはこれまで日本では見た事のないもので、例えば前立腺肥大症に対するUroLift® Systemや非浸潤性膀胱癌に対するphotodynamic diagnosis (PDD)など、大変興味深かったです。

またオフの時には、the Sound of MusicやMozart、

Salzburger NockerlnやSchnitzel, Schnappsなどと言った、ザルツブルクの素晴らしい歴史、文化、食を学べる機会を作っていただきました。その中でも、Mozarteumで行われたモーツァルトのコンサートに招待いただいた事は、最も心に残る出来事の一つです。

ザルツブルクで4日間を過ごした後、次に向かったのがドイツはチュービンゲンにある、University Hospital of Tübingenです。ここでも、Professor Arnulf Stenzlはじめ、スタッフの方々の親切なご指導により、実に多くのものを学ぶことができました。中でも、とても印象的だったのは彼らの卓越した手術スキルで、女性の根治的膀胱全摘術における神経温存やi-pouchテクニック、HybridKnife®を用いたen-bloc TUR-Bt、さらにはmale-to-femaleの性転換手術など、多岐にわたる手術をハイレベルな独自の技術で施行されておりました。

Professor Wilhelm K. Aicherからは彼らの大きな研究施設をご紹介いただき、現在行っているstem cell研究に関する大変興味深い講義を行っていただきました。基礎から臨床研究に至るまでそのレベルの高さに驚嘆し、自分自身大変良い刺激をいただきました。

また、こちらでもオフの時間にはチュービンゲンのシティツアーや豪華な現地レストランへ連れて行っていただき、朝から晩までびっちり充実した、あつという間の2日間でした。

その後、チュービンゲンから最終目的地であるミュンヘンまで、かの有名な速度制限のないアウトバーンを車



写真1 ザルツブルク市街とProf. Sievert夫妻(中央)、そして台湾メンバー達(左端が岡田先生、右端が筆者)

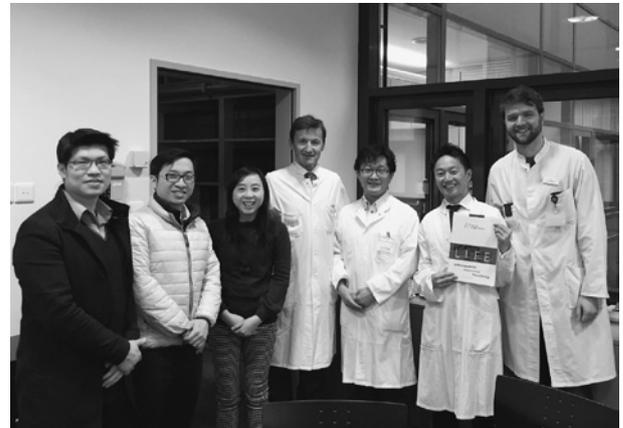


写真2 Prof. Stenzl(中央)、Dr. Harland(右端)、台湾メンバー達と(右から3番目が岡田先生、2番目が筆者)

で移動しましたが、時速200km近い車が走り抜けるその旅路は、実にスリリングでした。

ミュンヘンでは第31回EAU Annual Congressに出席しましたが、今回は幸か不幸か自身の発表機会がなかったので、全日程思いのまま様々なプログラムやイベントに参加することができました。中でも、タクシーに身を包み、ブラックタイで臨んだEAU President's & International Friendship dinnerは今回のプログラムを通じて最も心に残る出来事となりました。由緒ある、荘厳な会場で、有名なヨーロッパの先生方を前に、壇上に呼んでいただき、さらにはきらびやかで重厚な楯をいただけたのは、これまでの人生の中でも最も輝かしい瞬間

となりました。

今回過ごした11日間という時間は決して長いものではありませんが、このプログラムを通し、国や文化、言語を越えて学んだ多くの事柄、出会ったたくさんの人々は、今後の私の人生を変えるには十分過ぎるものでした。

改めまして、今回のプログラムに関わられました全ての人々、さらには今回のプログラム参加にご理解をいただきました自施設の方々、家族や友人に心より感謝申し上げます。

*Besten Dank!*